注及び解説

(一) 大塩平八郎外の人相書

『大阪市史第四』の「御触及口達」天保八丁酉年補触一六五によれば、次のようである。

当二月十九日、容易ならざる企テニ及び、大坂市中所々放火致シ乱暴ニ及び候、元大坂町奉行組与力大塩平八郎并二組与力大塩格之助・同瀬田濟之助・同組同心渡辺良左衛門・同庄司義左衛門・同近藤梶五郎等人相書。

大塩平八郎 一年齡四拾五、六歳 一 顔細長ク色白キ方 一 眉毛細ク薄キ方 一 額開キ月代青キ方 一 眼細ク釣候方 一 鼻常躰 一 耳常躰 一 せい常躰中肉 一 言舌さわやかニて尖大キ方 一 其節着用鉄形付甲着用 一 其余着用不分

大塩格之助 一年齡式拾七才斗リ 一 顔短ク色黒キ方 一 せい低キ方 一 鼻常躰 一 眼常躰 一 眉毛厚キ方 一 齒上向齒式枚おれこれ在リ 一 言舌静力なる方 一 其節の着用不知

瀬田濟之助 一年齡式拾五歳斗リ 一 顔丸ク色浅黒キ方 一 背高ク肥り肉 一 眼九二皮目ニて大キ成ル方 一 鼻高キ方 一 眉毛厚キ方 一 月代薄ク小鬢これ在リ 一 言舌不弁成ル方 一 其節の着用不分

渡辺良左衛門 一年齡四拾五、式歳 一 顔色青キ方 一 せい低キ方 一 眼出目二皮ニて大成ル方 一 齒出候方 一 月代常躰 一 言舌静成ル方 一 其節の着用不分

庄司義左衛門 一年齡四拾歳斗リ 一 色黒おとかひ細キ方 一 左の耳かぶれこれ在リ 一 眼細キ方 一 月代常躰 一 言舌常躰 一 其節の着用不分

近藤梶五郎 一年齡四拾歳斗リ 一 顔丸ク赤黒キ方 一 せい低キ方 一 眼丸ク常躰 一 月代常躰額際ぬきこれ有リ 一 抱瘡の跡これ有リ 一 言舌常躰 一 其節の着用不分

右の通りの者共これ有ルニ於テは、其所ニ留置キ、早々大坂町奉行所へ申出べく、若シ見聞ニ及ビ候ハ、其段も申出べく候。隠置キ脇より相知レ候ハ、曲事ト為スべく候。三月

(二) 天保九年諸國巡見使一件

巡見は將軍の代替わりことに実施される恒例の行事であるが、この後の黒船騒ぎや尊皇攘夷運動の高まりなど、政治情勢の急迫からこの天保九年を最後に行われなくなる。

『統徳川実記』慎徳院(家慶)殿御実記卷二に次のようにある。

二月十九日、使番土屋一(市)左衛門、木下内記、諫訪縫殿助、山本七郎左衛門、小姓組馬場大助、設楽甚十郎、石尾織部、西城小姓組三宅三郎、竹本彦八郎、書院番内藤源助、水野藤次郎、寛新太郎、市岡内記、西城書院番石川大膳は諸國巡視の事命ぜられいとま下さる。

同廿六日、使番安藤治右衛門巡視の事命ぜられ、暇下され賜物あり。勘定方のも同じく御料所巡視の事命ぜられいとま下さる。

三月十五日、使番平岩七之助、曾我又左衛門、黒田五左衛門、西城小姓組片桐朝負、右大将殿小姓組大久保勘三郎、中根傳七郎、西城書院番三枝平左衛門、右大将殿書院番近藤勘七郎、岡田左近は諸國巡視の事命ぜられいとまくださる。

六月朔日、使番安藤治右衛門、土屋一(市)左衛門、小姓組馬場大助、設楽甚十郎、書院番内藤源助、水野藤次郎は巡視はててかへり記す。

九月朔日、使番黒田五左衛門、右大将殿書院番岡田左近、巡視はててかへり記す。

これらの記事によれば、大名、旗本領には特別編成の巡見使が、幕府の直轄領には勘定方役人で編成した巡見使が派遣されたいらしい。風間觀静著『改訂増補奥州街道宿駅制の研究』(敵南堂書店、一九九六)によれば、蝦夷地の松前藩領を含む東北地方の太平洋側の巡見使は、正使が黒田、副使は中根と岡田であったが、それ以外の地域分担の詳細は不明である。このうち、中根は七月中旬に盛岡の宿泊先で病死したため、前記九月朔日の記事になった。

なお、参考文献一七によれば、先の通達にもかかわらず巡見使の接待にはかなり無理をした所もあったらしい。

(三) 居屋敷相對替

津軽藩の屋敷は、この時期にはすべて本所地域(現在は墨田区、江東区にまたがる区域)にあった。現行の住居表示に従えば、上・中屋敷は墨田区亀沢二丁目に近接しており、下屋敷は同区錦糸一丁目の大横川沿いと江東区亀戸三丁目の亀戸天神隣の二か所、それに隅田川沿いの横網一丁目の荷揚場である。この相對替の記事は最後の横網のもので、幕府御竹藏前の角屋敷を松前藩に譲り、代わりに荷揚げに便利な川岸の小区画を得たのである。ちなみに、この地域には「本所に過ぎたるもの、津軽屋敷に炭屋塩原」というものはづけがあった。大名家の下屋敷は珍しくもなかったが、上屋敷までを本所に構えたのは津軽家だけだったから、本所の人々は誇りにもし大事にもした。炭屋塩原というのは相生町に住む上州出身の豪商で、後年愛馬「青」との別れを描いた三遊亭円朝の人情唄「塩原多助一代記」のモデルとされた人物である。

(四) 渡辺登(畢山) 一件

天保十年五月、老中水野忠邦は幕府の対外政策を批判した高野長英、渡辺畢山らの捕縛を命じた。摘発のきっかけとなったのは長英の「夢物語」であったが、畢山の場合は家宅搜索の結果発見された「慎機論」と「初稿西洋事情書」に「異国を称美しわが国をそしる」記述があると認定したのである。対象者の一人、小関三英は捕縛を甘受せず自殺した。これを蜜社の獄という。

幕府自体に、対外的な危機感がなかったわけではない。この原本には採録されていないが、八年六月にはアメリカ船モリソン号が浦賀沖まで進入したことから、少なくとも江戸近海における海防を焦眉の急と考えていた。そのため、目付島居耀蔵と伊豆菲山代官の江川英龍に海岸の巡見調査を命じてもいる。江川は、長英と畢山を助言者として防備計画を立案するが、長英の執筆になる「夢物語」が外部に流出し評判になったことから事態は急転し、島居のフレームアップ工作もあって大がかりな摘発となったのである。

なお、この原本九一には「慎機論」と題するものがほぼ全文筆録されており、記述の趣旨は刊本とはほぼ一致するものの、文章そのものの品位はかなり劣る。それが元本のためなのかどうかは不明である。

(五) 隠売女新吉原町へ下され一件

『藤岡屋日記』天保十二年閏正月条に次のようにある。

右、去ル子年十一月中北御番所遠山左衛門尉殿へ召捕られ、隠売女は新吉原へ売渡し、右の通り右宿を致し候者共は所御構に相成り候。右の外に病人等これ有り、総高六十五人内五十三人の者隠売女身売り致し候者、天保十一庚子年十二月四日召捕られ、同月中御吟味二相成り、同月廿五日落着吉原町へ下され候事。あと十二人は同十二月廿三日北御番所へ召捕られ、同月廿九日落着即日吉原町へ下され候事。

(六) 出版物御咎一件

「殿居糞(本文の書込みは誤り)前後二冊、「青標紙」前後二冊はともに幕府の儀式・典命などについて詳述しており、公式行事の参考書として重宝がられ正規の出版(三百部限定)のほか写本や闇出版もあつたらしい。しかし、幕府は内情を明らかにするものとしてこれを嫌い、「泰半年表(本文書込みは誤り)」と合わせてこの年一月と二月に相次いで絶板と版木の没収を行なった。著者の大野広城は本文の通り綾部へ送られるが、その七日後に死去する。なお、『藤岡屋日記』天保十二年六月九日条では下谷新寺町の菱屋伊助の名前しか見えないが、同年九月十一日条では神田旅籠町の柏谷喜兵衛、本銀町永楽屋東四郎支配人(名義人は幼年者である)と合わせて三人が江戸構の処分を受けている。また、広城の嫡男で十六歳の鎌之助も父親の科により改易されて浪々の身となる。

(七) 三方替中止一件

財政難に悩む川越藩松平家は、家斉の第五三子斉省を養子に迎えたことを頼みに富裕な姫路への転封を願い出た。これは老中水野越前守

の裁量によつて出羽庄内に決定するが、突然の転封命令に庄内藩酒井家はもとより領内も騒然となった。天保十一年十一月の内示から三か月後庄内領民の聞老に対する籠訴が決行される。『藤岡屋日記』天保十二年五月条によれば、仙台藩松平(伊達)陸奥守に対しては取りなしの尽力を願ひ出る。

私共御領主酒井左衛門尉様先達て御所替へ仰付られ存じ寄らず驚き入り奉り候。(中略)其後度々凶年打続き凌ぎ方手段これなきところ、巳年(天保四年)同前に御手当なし下され其上前々より諸拝借米、金銭共残らず切り下され罷りなり申し候。ケ様の年柄御年貢御取納も格別相欠け候ところ、都て御手当これ有り誠に以て莫大の御仁徳、挙げて有難く存じ奉り罷りあり候ところ、存じ寄らず御所替仰付られ、老若男女一統愁傷歎きに沈み、御恩君に離れ奉るに忍び難く候間(中略)密かに江戸表へ出府仕り重ねて御公儀様へ御駕籠訴も申上げ申上げ候へども、御取上げ有無未だ様子も相知れず(中略)御大國相慕はず候ては願望達し申すべき様これ無く候間、念願の段御執成し成し下され候よう一同愁訴仕り候。(後略)

この三方替はことに外様大名に危機感を抱かせ、水野に対して強く牽制する手段に出た。この結果、川越藩と大奥の密約などが明らかになり、水野を三日間登城停止にしての間に急いで三方替の中止を決定したのである。川越藩の切り札だった斉省が折悪しく病死したのも封じ込めを成功させた一因であろう。

(八) 中野石翁一件

前將軍家斉の愛妾お美代の方の養父として権勢をふるつた石翁も、家斉没後は失脚を免れることは出来なかつた。『藤岡屋日記』の天保十二年条から関係部分を抜き出すと、以下のようなになる。

五月廿八日夜 下総国中山法華寺地中智泉院(日尚)、御詮義の筋これ有り、寺社奉行阿部伊勢守家米院内へ踏込み、智泉院并二所化其外共残らず捕へル。

十一月五日 申渡

智泉院日尚

(前略) 下総国船橋宿九日市村旅籠屋長兵衛方へ罷越シ、同人下女ますを酒の相手に致し、密通の上度々女犯二及ビ候段(中略)不届に付晒シの上触頭へ相渡シ(後略)

守玄院日啓(日尚の長男)

(前略) 同国田尻村百姓文蔵後家りも事尼妙栄を院内へ止宿致させ密通の上度々女犯二及ビ候次第(中略)殊に露見を恐れ一旦立退キ候始末不届二付、遠島申渡ス。

文中の旅籠屋長兵衛は日啓の実弟であり、つまり親子、兄弟ぐるみで僧侶にあるまじき女犯の罪を犯していた、というのである。お美代の方は兄弟の妹である。

右、お美代方実兄船橋宿旅籠屋長兵衛宿請にて、元小納戸頭取従五位下中野播磨守入道石翁藤原清茂方へ奉公済ミ致し、其後清水殿小性(姓)内藤造酒允娘に貰ひ請ケ後また石翁の養女に致し、大奥へ御奉公に出、追々昇進致して御中臈になる也。

お美代の方は、家斉の第三六子潯姫（後、加賀藩前田齊泰室）と第四三子末姫（後、広島藩浅野肃室）を産み、養父石翁は極官が小納戸頭取という低い身分にもかかわらず、家屋敷二か所を与えられたほか時々登城して家斉の話し相手をするという特権を与えられた。しかし、真偽の程は不明ながらこうした身内の不始末でその特権をすべて剥奪され、小姓を勤める息子清賢方への回厩を強要されたのである。

(九) 天保改暦

天保暦は、日本で始めて定気法を採用した最も精密な太陰太陽暦である。天保十五年（弘化元年）の頒暦には次のような記載がある。

今まで頒ち行れし寛政暦は遠へる事のあるをもて更に改暦の命あり。遂に天保十三年新曆成ルに及び詔して名を天保壬寅元暦と賜ふ。抑モ元文五年庚申、宝暦五年乙亥の曆にことわる如く、一昼夜を云フは今晚九時を始とし今夜九時を終とす。然れども是まで頒ち行れし曆には毎月節氣・中氣・土用・日月食の時刻をいふもの、皆昼夜を平等して記すか故其時刻時の鐘とま、遅速違ひあり。今改る所は四時日夜の長短に随ひ其時を量り記し、世俗に違ふ事なからしむ。今より後此例に従ふ。

(一〇) 仙石騒動その後

天保六年前藩主仙石政美は嗣子がないうまま死去、実弟の久利がその後を継いだ。しかし、まだ幼少だったため家老仙石左京が後見役となつたが、藩主の一族でもある左京は自分の子小太郎を藩主にとの野望を抱いた。左京は正義派の家老荒木玄蕃らを遠ざけ、久利暗殺の噂が流れると国家老河野瀬兵衛を死刑にするなど専断の度を強めた。やはり一族である仙石弥三郎の用人神谷転は左京の追及を逃れて虚無僧に姿を変えていたが、左京の依頼を受けた江戸町奉行筒井政憲に捕らえられ、寺社奉行脇坂安童の取調べを受ける。藩の名譽にかかわるとして沈黙していた転もようやく実情を告白し、左京は獄門、小太郎は遠島となり、久利は家政不取締りで五万八千石余から三万石へ減知となつた。なお、左京の不正に深くかわつていたとして老中松平康仁と筒井が処分されたが、地方の一小藩の内紛が幕閣の要人にまで累を及ぼしたのは、後にも先にもこの一件だけである。

この年、老中真田信濃守が仙石家につながる親類一同を呼び出して警告したこの内容は不明であるが、先の騒動から八年を経過してなお藩内に火種が残っていたらしい。

(17) * (18) * (19) * (20) * (21) *
(22) * (23) * (25) * (27) * (28) *
(29) * (30) * (31) * (32) * (33) *
(37) * (41) * (44) * (48) * (54) *
(56) * (57) * (60) * (61)、14- (2) *
(3) * (5) * (9) * (11) * (17) *
(19) * (22) * (23) * (32) * (33) *
(34) * (35) * (38) * (40) * (51) *
(55) * (56) * (59) * (60) * (61) *
(64) * (65) * (67) * (69) * (70) *
(72) * (75) * (76) * (77) * (78) *
(79) * (88)

12- (6) * (27)、14- (86)

9- (8)、12- (14)

14- (35) * (46)

12- (6)

10- (8)、12- (80)

9- (5)

水野忠篤

水野重明

水戸齊昭

美濃部茂矩

三宅康直

村瀬重候

美濃守

采女

中納言

筑前守

土佐守

長門守

[や行]

柳沢保泰⇒松平保泰

柳沢保興⇒松平保興

矢部定謙

吉井信充⇒松平信充

米津政懿

左近将監、駿河守

12- (9) * (84)、13- (13)

越中守

8- (10)

[わ行]

脇坂安董

渡辺登 (單山)

中務大輔

9- (2)、10- (17)、12- (2)

10- (8)

本多助賢

豊後守

12- (42)、13- (6)

〔ま行〕

牧野忠雅

備前守

9- (5) ・ (7)、11- (10)、12- (31)

増山正寧

彈正少弼

12- (42)

松平〔越前〕 齊民

三河守

9- (5)

松平〔越前〕 齊典

大和守

9- (5)、11- (10)、12- (32)

松平〔越前〕 齊齋

出羽守

9- (5)

松平〔越前〕 慶永

越前守

14- (16)

松平〔池田〕 齊訓

因幡守

9- (5)、11- (8)

松平〔池田〕 慶行

因幡守

12- (31)、14- (91)

松平〔大河内〕 輝承

右京亮

9- (5)

松平〔大河内〕 輝充

右京亮

14- (37)

松平〔奥平〕 忠恵

玄蕃頭

12- (14) ・ (68)

松平〔奥平〕 忠国

駿河守

14- (24)

松平〔越智〕 武揚

右近将監

9- (5)

松平〔形原〕 信志

紀伊守

9- (5) ・ (9)

松平〔黒田〕 齊溥

美濃守

9- (5)

松平〔桜井〕 忠栄

遠江守

8- (3) ・ (8)

松平〔島津〕 齊興

大隅守、宰相

13- (64)

松平〔伊達〕 齐邦

陸奥守

12- (37)

松平〔戸田〕 光庸

丹波守

9- (5) ・ (7)

松平〔蜂須賀〕 齊昌

阿波守

12- (60)

松平〔久松〕 定猷

越中守

10- (6)

松平〔久松〕 定毅

隠岐守

14- (34) ・ (35)

松平〔柳沢〕 保泰

甲斐守

8- (3) ・ (8)

松平〔柳沢〕 保興

甲斐守

9- (7)、13- (6)

松平〔吉井〕 信充

左兵衛督

9- (5)

松平忠優

伊賀守

9- (7)、14- (13) ・ (37)

松平政周

豊前守

12- (81) ・ (83)、13- (57)、14- (3) ・ (12) ・ (18) ・ (23) ・ (33) ・ (56) ・ (65) ・ (70) ・ (77) ・ (85) ・ (87)

松平近昭

式部少輔

14- (12) ・ (18) ・ (41) ・ (86) ・ (89) ・ (90)

松平乗全

和泉守

14- (35) ・ (68) ・ (96)

松前隆之助、良廣

9- (4)

間部詮勝

下総守

14- (30) ・ (57)

水野忠邦

越前守

8- (8) ・ (16) ・ (18)、9- (1) ・ (6)、10- (4) ・ (5)、11- (3) ・ (7) ・ (8)、12- (3) ・ (5) ・ (6) ・ (16) ・ (20) ・ (23) ・ (29) ・ (30) ・ (35) ・ (39) ・ (60) ・ (62) ・ (78) ・ (84) ・ (95)、13- (2) ・ (6) ・ (7) ・ (11) ・ (16) ・

土屋寿直	相模守	9- (5)
土屋廉道	紀伊守	11- (1)
筒井政憲	紀伊守	9- (5) ・ (7)、12- (9)、13- (13)
土井利位	大炊頭	8- (6) ・ (12)、9- (7)、12- (1) ・ (51) ・ (55)、13- (42) ・ (43) ・ (49) ・ (51)、14- (9) ・ (21) ・ (35) ・ (86) ・ (87) ・ (88) ・ (96) ・ (101) ・ (102)
土井利忠	能登守	9- (5)
遠山景晉	左衛門尉	9- (8)、12- (70)
遠山景元	左衛門尉	14- (17) ・ (22) ・ (32) ・ (38) ・ (47) ・ (60) ・ (68) ・ (69) ・ (78) ・ (79) ・ (81)
遠山半左衛門		14- (89) ・ (90)
土岐頼旨	丹波守	9- (5)、12- (13)
戸田光庸⇒松平光庸		
戸田氏正	采女正	10- (1)、14- (37)
鳥居耀藏 (忠耀)	甲斐守	9- (7)、12- (81) ・ (83)、13- (44)、 14- (96)

[な行]

内藤頼寧	駿河守	12- (68)、14- (37)
永井直興	飛騨守	9- (5) ・ (9)
中川久昭	修理大夫	14- (76) ・ (81)
丹羽長富	左京大夫	14- (34)
野田元矩	下総守	9- (5)

[は行]

蜂須賀齋昌⇒松平齋昌		
林忠英	肥後守	9- (5) ・ (8)、11- (4)、12- (6)
久松定猷⇒松平定猷		
久松定毅⇒松平定毅		
深谷盛房	遠江守	9- (7)、12- (9)
堀田正衛	摂津守	12- (9)、13- (3) ・ (46)、14- (9) ・ (34) ・ (35) ・ (40) ・ (86) ・ (89) ・ (90)
堀田正篤	備中守	12- (47) ・ (88)、13- (47)、 14- (9) ・ (34) ・ (35) ・ (68) ・ (85)
堀 親憲	大和守	12- (6) ・ (26)、14- (9) ・ (34) ・ (35)
堀 利堅	伊賀守	8- (4)、14- (35)
本庄道貫	伊勢守	12- (71) ・ (74) ・ (75) ・ (78)、 13- (58)

奥平忠恵⇒松平忠恵		
奥平忠国⇒松平忠国		
奥平昌猷	大膳大夫	10- (1)
越智武揚⇒松平武揚		
尾張齋莊	大納言	14- (35) ・ (46)

[か行]

形原信志⇒松平信志		
神尾元孝	山城守・備中守	12- (5) ・ (38) ・ (52)、13- (4) ・ (29) ・ (35)、14- (55) ・ (62) ・ (76) ・ (83) ・ (96)
亀井茲方	能登守	8- (11)、9- (9)
河野辺修徳		12- (19)、13- (35)
紀伊齋順	大納言	14- (35) ・ (46)
久世廣周	出雲守・大和守	9- (9)、12- (37)、14- (15)
黒田齋溥⇒松平齋溥		
黒田直静	豊前守	9- (5)
小出英照	丹宮	12- (6)

[さ行]

酒井忠学	雅楽頭	8- (3)
酒井忠職	右京亮	8- (10)
酒井忠嗣	大和守	9- (7) ・ (9)
酒井忠発	左衛門尉	9- (5)、11- (10)、12- (32)、14- (25) ・ (84) ・ (91)
榊原忠義	主計頭	13- (13) ・ (34)、14- (10) ・ (96) ・ (102)
桜井忠栄⇒松平忠栄		
佐々木三蔵	近江守	12- (14) ・ (30) ・ (33) ・ (49) ・ (54) ・ (88) ・ (94)、13- (3)、14- (9) ・ (10) ・ (41)
真田幸貫	信濃守	12- (22)、13- (40) ・ (63)、14- (20) ・ (26) ・ (27) ・ (28) ・ (29) ・ (54) ・ (57)
新見正路	伊賀守	12- (8)
杉浦正義	出雲守	12- (26) ・ (81)
謙訪庄左衛門		12- (26) ・ (67)、13- (13)

[た行]

田口喜行	加賀守	12- (14)
伊達斉邦⇒松平斉邦		
津軽信順	越中守	9- (4)

主要人名索引

注：文書番号中、最初の数字は天保の年を表す。() 内はその年内での配列番号である。

姓名	官職名	関連文書番号
[あ行]		
青山忠良	因幡守	8- (3) ・ (8)、9- (7) ・ (9)
明楽茂村	飛騨守	10- (3)
跡部良弼	山城守・信濃守・能登守	8- (4)、12- (6) ・ (35) ・ (49) ・ (50) ・ (54) ・ (67) ・ (88)、 14- (35) ・ (96)
阿部正弘	伊勢守	13- (13)、14- (93)
有馬頼徳	玄蕃頭	10- (2)
安藤信山	対馬守	14- (35)
井伊直亮	掃部頭	12- (12)、14- (34) ・ (35) ・ (37)
池田齋訓⇒松平齋訓		
池田慶行⇒松平慶行		
石河政平	土佐守	12- (13)
板倉勝職	周防守	9- (5)、12- (37)
市川吉太郎	播磨守	13- (58)
井戸覚弘	大内蔵	14- (12) ・ (18)
稲生正興	出羽守	14- (2) ・ (11) ・ (47) ・ (59) ・ (64) ・ (75)
稲葉正守	丹後守	9- (7)
井上正春	河内守	9- (5)、14- (13)
遠藤胤統	但馬守	9- (7)、12- (45)、13- (9)、14- (9) ・ (34) ・ (35)
大岡忠固	主膳正	12- (9)、14- (9) ・ (14) ・ (21) ・ (35) ・ (49)
大草高好	安房守	9- (5) ・ (7)
大河内輝承⇒松平輝承		
大河内輝充⇒松平輝充		
大塩平八郎		8- (1) ・ (2) ・ (5) ・ (6) ・ (7) ・ (8) ・ (9) ・ (10) ・ (11) ・ (12) ・ (13) ・ (14) ・ (15)、9- (7)
太田資始	備後守	9- (10)、11- (5) ・ (6)、12- (17) ・ (18)
小笠原忠固	大膳大夫	9- (5)、14- (25) ・ (37)
岡部長和	内膳正	8- (3) ・ (8)、9- (5)
岡村直恒	丹後守	13- (2) ・ (19) ・ (25) ・ (33)、 14- (9) ・ (10) ・ (19) ・ (35) ・ (41) ・ (51) ・ (67) ・ (72) ・ (82)

025.8

解題書目 第25集 青森県立図書館編
青森 青森県立図書館 1996 (平成8).

371, 5p 21cm

内容：与之遠美叢遺 3 摘録編 2

平成8年11月11日 印刷
平成8年11月15日 発行

編集・発行 青 森 県 立 図 書 館
青森市荒川字藤戸 119-7
TEL. 0177-39-4211 (代)
FAX. 0177-39-8353

印 刷 株式会社 三栄企画印刷
青森市妙見三丁目 2-19
TEL. 0177-38-0040 (代)
FAX. 0177-38-0880

「青森県立図書館解題書目」刊行一覧
 (第22集までは品切れです)

第1集	津 軽 史	昭和46年10月21日	発行
第2集	官省指令留・官省願伺届	昭和47年3月10日	発行
第3集	滝 屋 文 書	昭和48年3月10日	発行
第4集	木 村 文 書	昭和48年11月25日	発行
第5集	多 門 院 文 書	昭和50年2月1日	発行
第6集	五 家 文 書	昭和51年3月31日	発行
第7集	寓 日 記 抄 一	昭和52年3月25日	発行
第8集	萬 日 記 抄 二	昭和52年7月28日	発行
第9集	萬 日 記 抄 三	昭和53年3月25日	発行
第10集	津軽史解説目次抄一	昭和54年6月25日	発行
第11集	津軽史解説目次抄二	昭和56年3月5日	発行
第12集	津軽史解説目次抄三	昭和57年3月15日	発行
第13集	津軽史解説目次抄四	昭和58年3月15日	発行
第14集	津軽史解説目次抄五	昭和59年3月25日	発行
第15集	萬 日 記 抄 四	昭和60年6月24日	発行
第16集	萬 日 記 抄 五	昭和61年6月26日	発行
第17集	寓 日 記 抄 六	昭和62年6月20日	発行
第18集	大 津 屋 文 書 一	平成元年1月31日	発行
第19集	大 津 屋 文 書 二	平成元年12月15日	発行
第20集	松井四郎兵衛留書	平成3年1月18日	発行
第21集	伊 紀 農 松 原 一	平成4年3月31日	発行
第22集	伊 紀 農 松 原 二	平成4年10月30日	発行
第23集	与 之 遠 美 叢 遣 一	平成7年3月31日	発行
第24集	与 之 遠 美 叢 遣 二	平成8年1月31日	発行
第25集	与 之 遠 美 叢 遣 三	平成8年11月15日	発行